

## 活 動 主 意

どこにでもいる普通の子どもたちが、「やってみたいな！」と思えば誰でも(\*1) 挑戦できるソープボックスダービー競技(\*2) をとおし「自らが、考え行動し結果を追求する体験」をして欲しい。

また、子どもたちには「自分の意志と少しの努力があれば、広い世界を目指せる事」を知って欲しい。

保護者には、「我が子の成長の一コマとして、共にダイナミックな夢に向かった瞬間」を体感して欲しい。

そして、全ての大人には「家族がチームとなり、世界最高峰の重力カーレース(\*3) に挑む場」を一緒に作り上げていただきたい。私たちは、こんな思いで日々活動に携わっています。

日本中の子どもたちに、「ソープボックスをやってみたいな！」と思えば誰でも叶えられる環境と、ビックリするようなプレゼント「代表選考会の参加の機会や国際大会の参加権・渡航券」(\*4) を提供するため、一人でも多くの方がそれぞれの立場で本競技に関わってくださることを願い、私たちは、私たちのミッションと社会貢献そして国際大会に挑戦する意義の普及に努めています。

### ミッション：青少年の健全育成

1. 子どもの「挑戦する心」と「健やかな心」の育成

① 世界をめざす経験の機会の提供（挑戦する心の育成）

② ヒーロー体験や、家族と一緒に笑ったり泣いたりドキドキしたりする体験の機会の提供（健やかな心の育成）

### 社会貢献：日本にはなかった「子ども対象のクルマ文化」の構築

1. 家族や地域社会に対して、カーレースをとおした様々なコミュニケーションの機会を提供する活動

2. 今日の社会課題の一助として、クルマに親しむ機会を提供する活動

3. 交通安全意識の高揚の機会を提供する活動

4. オールアメリカン・ソープボックスダービースタイルの導入や紹介

① 競技やその準備をとおした子どもの健全育成を願う社会教育事業

② 子どもの社会教育の必要性を知っている企業・団体の社会貢献事業

③ 世界中の子どものために全米からボランティアが集い支える体育事業

5. 新しいエコ時代における、科学・技術への興味喚起の機会を提供する活動

### 国際大会に挑戦する意義：生き抜く力を高める良い経験

1. 外国の生の文化に飛び込み、自分の持てる限りの能力をフル稼働させる経験

2. 日本代表としてのプレッシャーに打ち勝ち、勝負にこだわる気持ちから集中力や強い心をつくる経験

3. 他者を知り他者を認めるきっかけ（異文化交流）から、コミュニケーション能力を高め、生き抜く力を高める良い経験

(\*1) 参加年齢の制約（別途、競技要領を参照）

(\*2) 米国オハイオ州アクロンを中心に1933年から80年以上続く、「地球のチカラ（重力）」だけで直線を走りその速さを競うカーレース

(\*3) 頂点は「オールアメリカン・ソープボックスダービー(AASBD)国際大会」と言い、毎年7月に開催され全米と世界数カ国から数百人の選手とその家族が集う

(\*4) 私たちの主事業であり、2001年以来、日本の代表選手を選考する競技会の開催・開催支援（今後）と国際大会の参加支援を行っている